

地域学校協働活動における 大人の学びについて

2022丹波市社会教育委員会議 研究テーマ

研究テーマ設定までの流れ

2020①会議

教委よりコミスク進
捗・推進員配置に
ついて説明

2020②会議

松本委員より地域
学校協働活動事例
報告（教育委員と
の合同会議）

2020③会議

研究テーマの設定に
向けた課題の整理

2021①会議

社会教育とは？
会議のあり方は？

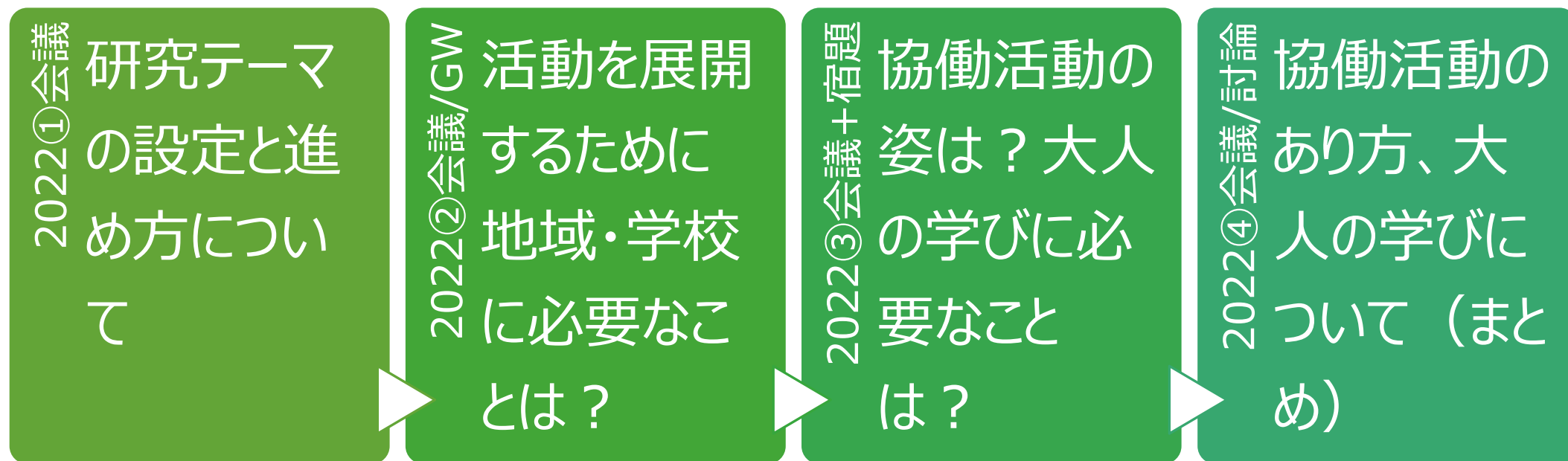
2021②会議

社会教育に必要
なことは？委員が
することは？

2021③会議

市社会教育につい
て教委との意見交
換、教育長より…

2022会議「テーマ研究」の流れ



まなびの里プロジェクト、国・県・市の地域学校協働フォーラムなどへの参加

2022 第2回会議

①『南小学校の地域学校協働活動 これまでとこれから』（録画視聴）

丹波市立南小学校校長 藪内 大介さん

学校運営協議会会長 打田 哲夫さん（自治振興会会長）

地域学校協働活動推進員 松本 佳則さん

※「学校を核とした地域づくり」を応援するまなびの里プロジェクト交流会（7/24）での実践報告から

②動画視聴後の意見交換及び情報共有

③グループワーク「地域学校協働活動を市内へ展開するためには」

・テーマ 【地域に必要なこと】 【学校に必要なこと】 【自分にできること】

①活動に関わる人材

- ・各活動等のキーパーソンを探す
- ・社会教育を語れる人を見つける
- ・資源になるものを探し出す（ティーチャー等）
- ・人材の把握と確保
- ・女性の活躍

②子どもへの関わり

- ・大人からあいさつをする
- ・家に子どもがいなくても関わる
- ・子どもは将来を担う人材という意識
- ・子どもへの声かけが出来る関係づくり
- ・子どもの声にアンテナを
- ・元気な若者であってほしい
- ・高齢者との交流
- ・子どもたちに関心や興味を持つ
- ・自治会の子どもの顔を知る、顔見知りになる
- ・登下校の見守りとあいさつ
- ・地域行事に子どもの役割を入れる

③学校との関係

- ・学校は地域を構成する一部
- ・教員の負担軽減
- ・学校側からの希望
- ・学校でどうのことを教えているかを知る
- ・学校に関心を持つ 地域の方から
- ・学校行事に参加する（通っている子どもがいなくなっても）
- ・学校から役とか用を頼まれたら断らない
- ・学校への関わり方を考えていく
- ・地域住民の理解
- ・学校へ行きやすい雰囲気づくり
- ・学校へ行く（オープンスクール・登校見守り）
- ・将来のビジョン共有
- ・何をしているのかを周知する

④地域のあり方

- ・地域の人同士で世間話をする
- ・人とのつながりを大切にする（集まりに参加）
- ・自治会等の協力体制
- ・押し売り
- ・保護者の要望を聞く
- ・地域に関心を持つ
- ・素材集め
- ・近所の声かけ
- ・伝統行事を伝える・守る
- ・地域での行事を大切にする
- ・情報発信（対住民）
- ・集まる機会の確保
- ・安心・安全な場所
- ・異年齢の交流
- ・60～70歳代の元気な方々のコミュニティー
- ・高齢者の生きがいづくり
- ・大人が地域の良さを知る
- ・住民が地域のことを知る
- ・交流
- ・わがごととして考える
- ・「しってやる」と思わないこと
- ・自治協の行事に参加する
- ・伝統行事
- ・子どもの声が聞こえる地域



⑤様々な場づくり

- ・集まる場所（機会）を作る
- ・自治会で理解を深めていけるような学びの場づくり
- ・どんな子どもに育ってほしいのか語る場
- ・顔の見える場
- ・話し合いの場づくり
- ・遊べる場所
- ・交流する機会
- ・働ける場所

⑥協働活動について

- ・ボランティアの呼びかけに応じる
- ・ボランティアではない
- ・どんな活動をされているか知る
- ・地域学校協働活動への理解と“本質的な協働活動”を培い育む
- ・まちづくりにつながるという視点
- ・コミュニティースクール（学校運営協議会制度）への理解度を高め深める
- ・地域学校協働活動への評価をすること

地域学校協働活動を推進するために必要なことは？

【1. 地域に必要なこと】

①地域との関係

- ・学校に関わりのない方への声かけ
- ・学校行事をアピールする
- ・地域との対話
- ・行事を伝える
- ・地域の人の意見を聞く
- ・困っていることを地域に伝える
- ・部外者だと思っても言わない
- ・受け入れ体制
- ・その地域の持続可能性を見る視点
- ・何でも思っていることを伝える
- ・先生が地域の人と顔見知りになる
- ・先生が地域のことを理解する
- ・地域のことを知る（人）（歴史）
- ・地域に関心を持つ
- ・地域の困りごとの把握
- ・地域の人に感謝する
- ・地域人材を知る
- ・地域人材の活用
- ・地域を知る
- ・求めていることを伝える
- ・地域の人を招く（高齢者）
- ・先生が地域に入る
- ・雰囲気…いつでもWelcome

②情報発信

- ・情報発信
- ・情報発信（プライバシーもありますが）
- ・学校のことを知ってもらう（子どもがいない家）
- ・情報発信・・・行事など、困っていることなど
- ・学校の困りごとを発信
- ・学校HPの発信

③学校内部の体制

- ・転勤した時の引き継ぎ
- ・校長先生と職員・先生との話し合い
- ・門を開ける 開かれた学校
- ・校長・教頭以外の人も関わる
- ・総合時間にゲストティーチャー授業を増やす
- ・PTA活動への前向きな参加
- ・子どもたちが地域を知る
- ・コロナ前に展開されていた数々の良い取り組みを取り戻す
- ・子どもが安心して遊べる放課後の運動場
- ・子どもだけでグランド使用OK？
- ・部活動はほどほどに！
- ・子どもの意見を聞く



④学校が地域と一緒にやれること

- ・地域の人が入ることを先生が理解深める
- ・参観日のほかにも学校に来てもらう
- ・子どもと地域の方とお話する場をつくる
- ・子ども達が地域とふれあう場をつくる
- ・せめて地域の祭りには参加して
- ・運動会一緒にやりませんか
- ・地区の運動会を開催
- ・音楽会や遠足一緒にやりませんか
- ・課題・問題等を地域と一緒に考える
- ・地域の人が学校で集まる場所
- ・地域住民への教室・校庭の開放
- ・学校の困りごとを地域と共有
- ・住民が集える教室（場所づくり）
- ・夏祭り
- ・学校と地域が一緒にできること(行事)
- ・部活やクラブへの参加要請
- ・外あそびが減っているように感じる
- ・地域と学校の十分な対話
- ・子どもにアンテナ、子どもファースト
- ・保護者同士が顔見知りになる環境づくり
- ・地域行事への子どもたちの参画を！

⑤協働活動について

- ・教職員の皆さんに協働活動を行うメリットを体感してもらう
- ・地域学校協働活動への評価をすること

地域学校協働活動を推進するために
必要なことは？

【2. 学校に必要なこと】

①子どもと一緒に

- ・子どもにあいさつ（声かけ）
- ・通学路の点検
- ・ボランティア（子どもたちのクラブ活動）に参加
- ・子どもの見守り
- ・子どもと一緒に学校へ行く
- ・子どもの話し相手、遊び相手
- ・読み聞かせ
- ・チェーンソーを使って植木の選定や、里山の遊び場の保全
- ・自然遊び
- ・習字
- ・森（里山）づくりの楽しさを一緒に体験する

②学校との関わり

- ・地域の方と一緒に連れていく
- ・学校へ関わっていく
- ・先生と地域のボランティアをつなぐ
- ・学校に親しみを持つ（オープンスクールに参加するなど）
- ・学校に行ってみる（オープンスクール）
- ・地域の住民として、学校に入る



③自分の活動・行動として

- ・学校外活動で好きなことを頑張る
- ・自分の役割
- ・仲間づくり、担い手
- ・つなぐ
- ・困りごとを相手に伝える
- ・困りごとをみんなで考える機会をつくる
- ・役割を分担しみんなで頑張れる機運をつくる
- ・地域・学校に理解を示す
- ・仲間づくり
- ・組織づくり
- ・担い手づくり
- ・それぞれの思いを聞く（つなぐ役割）
- ・自治会行事に小中学生を招く
- ・ボランティアなど呼びかけがあると参加する
- ・地域の女性会に積極的に参加する
- ・行事に参加する
- ・地域・学校と取り組みを否定しない
- ・この地域で楽しんで暮らしている姿を見せる

地域学校協働活動を推進するために必要なことは？

【3．自分にできること】

2022 第3回会議

- ①前回会議でのグループワークの振り返り
- ②「学校を核とした地域づくり講座」を受講した委員から感想を聞く
- ③地域学校協働活動に関わる委員から、取り組み事例などを紹介
- ④ワークシートの記入と提出について（宿題）
- ⑤ワークシートのまとめ（事後に集約）

丹波市の「地域学校協働活動」のあり方（私が思い描く…）

1. 理念を共有する
 - 「地域学校協働活動」「学校運営方針」「地域づくり計画」などの共有
2. 「地域」「学校」「行政」が地域の資源や課題を共有する
 - 地域の様々な人・モノ・文化・課題などを知ることから始まる
 - 地域の行事や営みに参加しているか？
3. 「地域」「学校」「行政」のパートナーシップを構築する
 - 協働を理解しているか？
 - それぞれのビジョンがあるか？
4. 大人と子どもが学び、育ち合う場となっている
 - 子どもだけの教育ではない
 - 住民や教職員が参画しやすいか？また多様な人が関わっているか？
5. 推進役が有効に機能している
 - 地域・学校・行政をつなぐ役割として、推進員の人選と育成
 - 行政は継続した活動ができるように支援する
6. 活動の拠点づくり
 - 学校や自治協議会などの施設が共有されているか？

「地域学校協働活動」における社会教育のあり方（大人の学び…） 1/3

1. 全般的に

- ・新しいことにチャレンジする「気持ち・行動」←でも、「誰かの後押し」も必要
- ・大人の学びにこだわらない。(他世代間の学び合いを意識する。)
- ・多世代間との交流の中で自分のやりたいことを振り返る。
- ・子どもから学ぼうとする姿勢。
- ・“自分を表現する”から“社会の為に自分の得意を役に立てる”へと意識を変えると学びの深まりが増す。
- ・まず共に楽しく参加できること（お茶会、黒豆づくりとか）
- ・そこで今、現状の中の問題点などから、学びを生み出すことが出来るかと思う。
- ・学ぶことが楽しいと思えること。
- ・視点を変えること、固定概念を取り除くこと。意識改革を促す機会。

「地域学校協働活動」における社会教育のあり方（大人の学び…） 2/3

2. 学校という場

- ・「学校」の存在が、子どもたちだけでなく、大人の学び（生涯学習）の場となって地域に存在しようとしている点を、知らしめる。
- ・先生方の理解が何処まで進み、前向きなのか？
- ・また、学校に関わるということは、学校を知ることが重要。
- ・ボランティアとして学校に関わることで、学校や子供たちの様子、考えを知ることができる。

3. 地域という場

- ・例えば、郷土の伝統文化や地域防災などについて大人が子供に教えるためには、まずはそのことについて大人がしっかりと学ばなければならない。子どもたちの教育に関心を寄せ、地域を挙げて育てていこうという熱意のある地域団体や知識・経験豊富な地域の大人のかかわりが必要。

「地域学校協働活動」における社会教育のあり方（大人の学び…） 3/3

4. どのような学びなのか

- ・ SNSでの情報発信
- ・ 講義形式でなく、誰もが話せる茶話会形式（お茶とお菓子）
- ・ 地域の人材ネットワークの構築
- ・ 人とのかかわりが深まったり、興味が深まったりすると、何か役に立つことができないかな…ということにつながったと思う。そのような機会があることと、キャッチできることが重要だと感じる。
- ・ 数年前、地域の小学5年生を対象に、古代米の稲刈りの体験学習をお手伝いしたことがある。鎌の持ち方や刈り方、束ね方など自分もうまくできないことを、いかにうまく教えることができるのかと考えた。当日小学生との交流で元気をもらえたのを覚えている。そのような経験も学びだと考える。
- ・ まずは住民が学校のことを知ることが必要。その機会を地域と学校が一緒につくる。
- ・ 小中学校の部活支援を地域住民で関わることで、大人の学びにつながる。

5. 行政

- ・ 自治会では公民館活動において社会教育のつながりがあるが、自治協議会にはない。今後、地域学校協働活動を進める上で、自治協へ社会教育による学びの場づくりの働きかけが必要。

「地域学校協働活動」に必要なことは？（まとめ）

- 「地域」「学校」「行政」のパートナーシップを構築する
 - 協働を理解しているか？
 - それぞれのビジョンがあるか？地域に合った体制づくりができているか？
- 「地域」「学校」が理念や方向性を共有
 - 「地域学校協働活動」「学校運営方針」「地域づくり計画」などの共有
- 「地域」「学校」が地域の資源や課題を共有する
 - 地域の様々な人・モノ・文化・課題などを知ることから始まる
 - 地域の行事や営みに参加しているか？
- 子どもと大人が学び、育ち合う場となっている
 - 子どもだけの教育ではない
 - 住民や教職員が参画しやすいか？また多様な人が関わっているか？
- コーディネーターが有効に機能している
 - 地域・学校・行政をつなぐ役割として、地域学校協働活動推進員の人選と育成
 - 行政は持続した活動ができるように支援しているか？
- 活動の拠点づくり
 - 学校や自治協議会などの施設が共有されているか？

「地域学校協働活動」における大人の学びとは？

1. 学ぶ姿勢・・・世代を超えた学び合い 楽しみながら 新しいチャレンジも

- ・新しいことにチャレンジする「気持ち・行動」←でも、「誰かの後押し」も必要
- ・大人同士の学びにこだわらない。(他世代間の学び合いを意識する。)
- ・多世代間との交流の中で自分のやりたいことを振り返る。
- ・子どもから学ぼうとする姿勢。
- ・“自分を表現する”から“社会の為に自分の得意を役に立てる”へと意識を変えると学びの深まりが増す。
- ・まず共に楽しく参加できること（お茶会、黒豆づくりとか）
- ・そこで今、現状の中の問題点などから、学びを生み出すことが出来るかと思う。
- ・学ぶことが楽しいと思えること。
- ・視点を変えること、固定概念を取り除くこと。意識改革を促す機会。

2. 学校という場・・・まずは学校を知る 学校を生涯学習の場に

- ・「学校」の存在が、子どもたちだけでなく、大人の学び（生涯学習）の場となって地域に存在しようとしている点を、知らしめる。
- ・先生方の理解が何処まで進み、前向きなのか？
- ・また、学校に関わるということは、学校を知ることが重要。
- ・ボランティアとして学校に関わることで、学校や子供たちの様子、考えを知ることができる。

3. 地域という場・・・大人が地域を知る 地域の団体や個人をつなぐ

- ・例えば、郷土の伝統文化や地域防災などについて大人が子供に教えるためには、まずはそのことについて大人がしっかりと学ばなければならない。
- ・子どもたちの教育に関心を寄せ、地域を挙げて育てていこうという熱意のある地域団体や知識・経験豊富な地域の大人のかわりが必要。

4. どのような学びなのか・・・情報発信 語り合いの場 人材ネットワーク 地域活動を生む

- ・SNSでの情報発信
- ・講義形式でなく、誰もが話せる茶話会形式（お茶とお菓子）
- ・地域の人材ネットワークの構築
- ・人とのかわりが深まったり、興味が深まったりすると、何か役に立つことができないかな…ということにつながったと思う。そのような機会があることと、キャッチできることが重要だと感じる。
- ・数年前、地域の小学5年生を対象に、古代米の稲刈りの体験学習をお手伝いしたことがある。鎌の持ち方や刈り方、束ね方など自分もうまくできないことを、いかにうまく教えることができるのかと考えた。当日小学生との交流で元気をもらったのを覚えている。そのような経験も学びだを考える。
- ・まずは住民が学校のことを知ることが必要。その機会を地域と学校が一緒につくる。
- ・小中学校の部活支援を地域住民で関わることで、大人の学びにつながる。

5. 行政・・・自治協議会と社会教育

- ・自治会では公民館活動において社会教育のつながりがあるが、自治協議会にはない。今後、地域学校協働活動を進める上で、自治協へ社会教育による学びの場づくりの働きかけが必要。

2022 第4回会議

【本日】2/10開催

今日の討議内容

- ▶ ①地域学校協働活動に必要なこと
- ▶ ②今の丹波市ですぐやるべきこと
- ▶ ③私たち委員は地域学校協働活動にどのように関わっていくのか？

①地域学校協働活動に必要なこと

もう少し踏み込んでお話ししましょう。

②今の丹波市ですぐやるべきこと

地域学校協働活動を展開するために・・・

優先順位？ 何から手を付ける？ 欠けていることは？

③ 私たち委員は地域学校協働活動
にどのように関わっていくのか？

お疲れさまでした！